

# 2021 年度入試 過去問題・参考作品「イメージ表現」

2020年 11月 15日実施

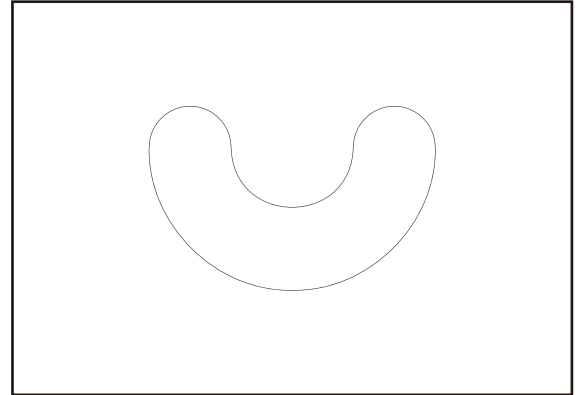
時 間 14:30 ~ 17:30 (180分)

問 題 画用紙に印刷された図形から発想される世界を  
絵と文章で表現しなさい。

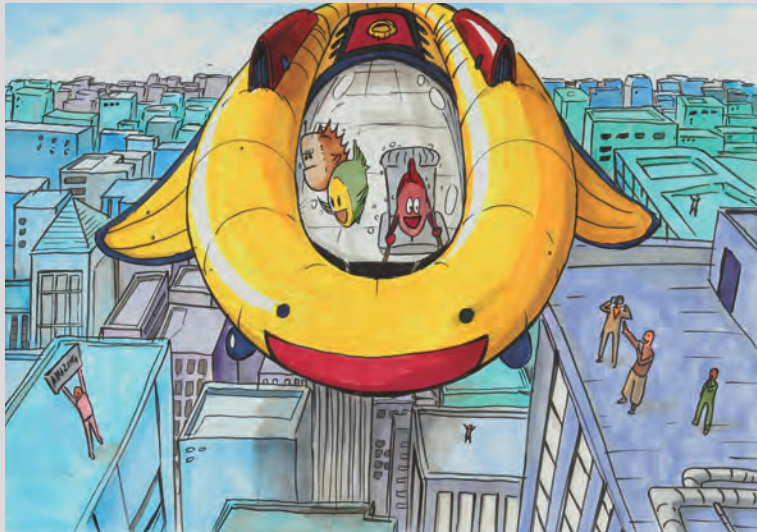
制作条件 画用紙は、縦位置／横位置のいずれに使用してもよい。  
作文の文字数に関する条件指定はありません。  
ただし、1枚の作文用紙のなかで文章表現してください。

支給材料 画用紙 (B4) 1枚  
作文用紙 (B5) 1枚  
アイデアスケッチ用紙 (A4) 1枚

図 形



参考作品①



作文

深海の中で、「上の世界はとても危ない」という話が前からずっと流れています。しかし、生まれてからずっと深海に暮らしていた魚、渡辺は「上の世界」に対して異常な好奇心を持っています。  
「ずっと底からこの黒い世界を見ている。上からこの世界を見ると、一体どんな様子なのか？」という疑問を晴らすため、賢い渡辺はどこでも飛べる船「渡辺丸」を作りました。  
そしてついに、2人の友達と一緒に上の世界へ行きました。

参考作品②



作文

森の中に音楽が大好きな妖精がいる。妖精たちは人間の世界で、「演奏会」という音楽を演奏するものがあることを聞いた。もし行けば…たくさんの音楽が聞ける。でも人間世界は妖精にとって危ないものだ、妖精たちは悩んでいる。  
そこで、妖精たちは森のうさぎに頼った。  
「もし私たちに、人間みたいに演奏会を開いてくれるなら、一年分の大根とか人参をあげるよ!」と妖精はうさぎに言った。  
それを聞いたうさぎたちはとても喜んだ。だからすぐに楽器を探してきて練習をはじめた。妖精たちも演奏会の会場を飾るため、人間が森で捨てた物からきれいな物を探して、花と一緒に会場で飾った。  
長い時間練習して、やっと演奏会を行う日が来た。この日うさぎたちの演奏会は、妖精たちだけじゃなく、森の中の動物も素晴らしい音楽を聞きに演奏会場へ行った。

参考作品③



作文

「恋電話」  
 私は今日初めて告白をする。初めての恋である。  
 鳴りやまないほどのるさい心臓、こんな時は「恋電話」を思い出してしまう。  
 私の町には「恋電話」の言い伝えが古くからある。  
 1人1つ持っている特別な電話。5と1のみ番号が存在する。  
 「51（こい）」とかけているのだろう。  
 その電話に向かって好きな人の名前を伝える。  
 そうするとその人に好かれる特別な香りをまとえるらしい。  
 夢の中で、私は電話をかけたが何も起きなかった。  
 約束の時間になった。私の告白は成功した。  
 2人で手をつないでいる時に彼が言った。  
 「君のイチゴの香りに僕はひかれたんだ」  
 私は驚いた。  
 夢の中で見た私の電話はイチゴで作られていたのだから。

参考作品④



作文

昔、母は言った。「家への道が見つからない時、この言葉を言いなさい。」  
 できるかどうか分からないけど、その道を探さないともうすぐ夜になる。  
 夜になると、さらに家は見つからない。  
 ドキドキしながら私はあのおまじないを言った。  
 「キノコ達よ、光って。星達よ、集まって。海の波達よ、踊って。大地の魔女さん、お願い、私に家への道を教えて。」  
 そのあと、どこからか出てきた黒い猫は私を家に導いてくれた。  
 あの猫さんは魔女様なのかもしれない、と私はそう思った。



# 2021 年度入試 過去問題・参考作品「イメージ表現」

2021年 2月 3日実施

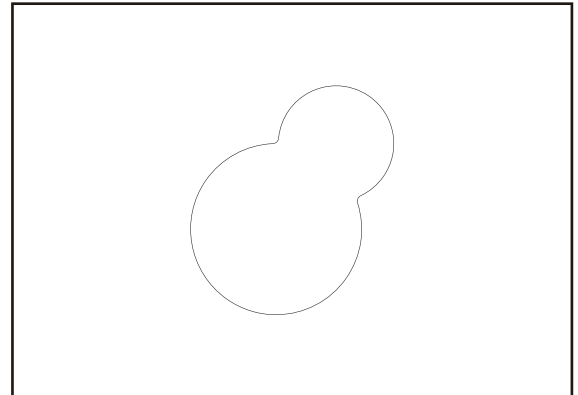
時 間 14:30 ～ 17:30 (180 分)

問 題 画用紙に印刷された図形から発想される世界を  
絵と文章で表現しなさい。

制作条件 画用紙は、縦位置／横位置のいずれに使用してもよい。  
作文の文字数に関する条件指定はありません。  
ただし、1 枚の作文用紙のなかで文章表現してください。

支給材料 画用紙 (B4) 1 枚  
作文用紙 (B5) 1 枚  
アイデアスケッチ用紙 (A4) 1 枚

図 形



## 参考作品①



## 作文

太陽がやっと顔をだしたそのころ、双子の赤ちゃんと夜遅くまで遊んでたくまの人形のルルは目が覚めた。  
ルルは窓から見える太陽の光に、思わず「まぶしっ」と一言。  
しかしすぐに空の美しさに思わずみとれてしまう。両腕には大好きな友達が。  
その大好きな友達が描いてくれた絵には必ず自分の絵が。  
ルルは、今の自分ほど幸せ者はこの世にいないだろうと改めて思った。幸せにひたっていると、双子の兄がムニャムニャ寝言を言い出した。思わず笑ってしまうルル。  
だって「ルルずっとトモダチだからね」と言ってくれたから。  
今日もまた、双子たちととびっきり楽しいアソビをしようと思いつきながら、また眠ってしまうルル。大好きなくまの人形の小さな夜明けでの出来事でした。

## 参考作品②



## 作文

この橋は、お母さんのいつもの通り道。  
今日は息子と一緒に、森にいる夫に会いに行っている。夫は昆虫学者で、近くで昆虫たちを観察するため、森に小屋を建てた。家族三人はめったに会えないため、いつもお母さんが会いに行く。お母さんは亡くなったおばあさんがくれた布で息子を巻いている。  
それは彼女にとって一番の宝物だ。  
「もうすぐだからね。」  
お母さんは息子に声をかけた。息子が応答しない。「…寝ちゃったの？しょうがないね…。」と、お母さんは苦笑いした。  
そして、お母さんは橋を渡り、まっすぐに小屋へ向かった。

参考作品③



作文

あるところに、とてもとても大きなアイスクリームのタワーがありました。太陽さんはアイスクリームのタワーを食べたいとぎらぎら輝いています。そのせいでアイスが溶けて、いまにも倒れそうです。

「たいへん！アイスが溶けちゃう！」と一匹の猫が言います。九匹の猫は急いでアイスクリームによじのぼって食べはじめました。アイスクリームには色んな味があって、バニラ、いちご、チョコミント、オレンジシャーベットにブルーベリーチーズ…。

どれもとても美味しいです。

「おいしいね。」ペロペロ。

「どの味が好き？」ペロペロ。

猫たちはせかせかと舐めながら、でもとても嬉しそうです。

参考作品④



作文

京都一の大どろぼうが今夜も現れたようです。「やーいやーい！今夜はお宝が大漁だー！これだけあれば当分、困らずに生活できるぜー！早く家に帰って子どもや女房の喜ぶ顔が見たいなあ。」町の皆さんも気をつけてください…？

あれれ？

町の人が自らお宝を置いています。

なぜでしょうか…。

なるほど！どろぼうは貧しい生活をしているから町の人達は寄付しているんですね。

これはもはや“どろぼう”と言うのでしょうか…！

「やーいやーい！みなさん、ありがとよー！！！」